

# 経済学研究科

経済学専攻

経営学専攻

## 1. 経済学研究科の教育研究上の目的及び人材養成の目的

経済学・経営学に関する深い学識を基礎に、実地的な応用能力を有する職業専門家、深い洞察力を備えた高い水準の研究者を育成する。

前期課程修了者には、専門知識を活かして、研究やコンサルティングに従事したり、企業実務の第一線で活躍する高度専門職業人となることが期待される。

後期課程修了者には、学術・研究機関において教育・研究に従事することが期待される。

## 2. 各専攻のディプロマ・ポリシー

### 経済学専攻

#### 【博士前期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 経済を、理論的、実証的、歴史的に分析する力
2. 現代社会が直面する事象や問題について経済学の知識を活用し論理的に思考する力
3. データ処理・分析を通じてデータに潜む情報を表現する力
4. 研究を適切に実行し、その成果を学術論文として完成させる力

#### 【博士後期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 自ら選んだ専攻分野で専門家としての能力を深め、高める能力
2. 学術性の高い研究課題を設定し、経済学の適切な枠組みを用いて考察・分析を行う力
3. 自立した研究者として独自の研究を遂行し、研究で得た知見や洞察を用いて世界や社会の発展に貢献する力
4. 研究を適切に実行し、その成果を学術論文として完成させ、発信する力

### 経営学専攻

#### 【博士前期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 経営学、マーケティング論、会計学あるいはこれらの周辺領域から選択された少なくとも一つの専門分野を深く理解する力
2. 本学の精神に基づき、世界の人々の生活向上や世界の企業のさらなる繁栄に寄与する独創的、先進的研究を行う力
3. 研究を適切に実行し、その成果を学術論文として完成させる力

#### 【博士後期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 学術性の高い研究課題を設定し、経営学、マーケティング論、会計学の適切な枠組みを用いて考察・分析を行う力
2. 自立した研究者として独自の研究を遂行し、研究で得た知見や洞察を用いて世界や社会の発展に貢献する力
3. 研究を適切に実行し、その成果を学術論文として完成させ、発信する力

### 3. 各専攻のカリキュラム・ポリシー

#### 経済学専攻

##### 【博士前期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、1年次のコースワークで経済学の理論や分析手法を修得し、2年次では指導・審査グループの助言のもとでテーマを設定し学位論文を作成するよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 1年次コースワークでは、基礎科目である「ミクロ経済学特講Ⅰ」「マクロ経済学特講Ⅰ」「計量経済学特講Ⅰ」および、「論文演習Ⅰ（基礎）」を必修科目とし、選択科目では各自の研究関心に応じて応用経済学の科目を開設する。
2. 「ミクロ経済学特講Ⅰ」「マクロ経済学特講Ⅰ」では、経済学の理論や分析手法を学び、「計量経済学特講Ⅰ」では、数量的分析手法を修得する。また、「論文演習Ⅰ（基礎）」や「選択科目」では、最新の研究動向を参考にしながら、現代社会が直面する事象や課題をどのような経済学的視点から分析できるのかを学ばせる。
3. 2年次では、論文テーマの設定や考察・分析枠組みの選択等について、指導教員を中心とした3人の教員から構成される審査・指導グループにより学位論文作成を指導する。
4. 学位論文審査では、研究課題を経済学の適切な枠組みにより分析し、学術的な位置づけを明確にしながら論理的に記述できているかを問う。

##### 【博士後期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として、コースワークで経済学の高度な理論や分析手法を修得し、「研究指導」により博士論文作成の指導を受け、学内セミナーでの研究報告により学位論文の完成度を高めるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 「研究指導」を必修科目とし、博士論文のテーマ設定や分析手法の選択等について指導を行う。
2. コースワークとして理論経済学、応用経済学、経済統計の分野の科目を選択必修科目として開講する。
3. 学内セミナーで研究報告し、指導教員をはじめ他の教員からも助言を受け、論文の完成度を高める。
4. 研究成果の一部が査読付き専門雑誌へ掲載されるように指導を行う。
5. 学位論文審査では、独自の学術的価値を有するか、自立した研究者として研究遂行能力があるか等を問う。

#### 経営学専攻

##### 【博士前期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、本学の精神を基礎として個々人の能力に沿い、個性を活かした成長を目指すよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 経営学、マーケティング論、会計学の各分野における標準的科目を配置する。
2. 少人数クラスにおいて、履修している学生の研究テーマや理解度を勘案しながら講義する。
3. 講義内容は、理論構築の基礎となる調査研究方法論（統計や社会調査技法）から、基礎的理論、現実の経営現象への応用まで広範囲にわたり、基礎と応用のバランスを考慮する。
4. 伝統的・標準的な文献講読タイプだけでなく、現実の事例に基づくケース・ディスカッション、データ分析の実習など多様な講義形式を科目特性や講義内容に応じて開設する。
5. 論文テーマの設定、その分析枠組みの選択、分析・考察および論文作成の各段階において、指導教員を中心とした3人の教員から構成される審査・指導グループが指導する。

**【博士後期課程】**

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、経営学、マーケティング論、会計学あるいはこれらの周辺領域から選択された研究課題に対する知見の深まりとその分析能力の高度化を目指すよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 指導教員による研究指導を通じて、理論を基礎とする現象分析や理論の現実への応用を可能とする高度な研究能力を涵養する。
2. 会計学、マーケティング論、経営学の分野の科目を開設する。
3. 国内あるいは海外の学会での発表、国内外の学術雑誌への論文投稿を推奨する。

## 経済学専攻 博士前期課程

### 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限、その他）
総単位数	30		
・必修科目	8		
↳ミクロ経済学特講Ⅰ	2		
↳マクロ経済学特講Ⅰ	2		
↳計量経済学特講Ⅰ	2		
↳論文演習Ⅰ（基礎）	2		
・選択科目	22		
↳自専攻科目			
↳自研究科他専攻科目			
↳委託聴講科目			10単位まで修了に必要な単位として認められる。
研究指導（必修）		4	単位なし、在学中毎学期登録される。 4科目以上合格すること。 ただし、早期修了者については、在学しない学期分は免除される。
修士論文			必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および試験に合格すること。 (修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず修士論文登録をすること。)

### 【研究指導スケジュール】

事項	期日	対象	備考
研究論文コースへの変更届の提出	3 月末まで	M1	研究論文コースへ変更を希望する学生のみ提出が必要。
研究計画書の提出	5 月上旬	M2	修士論文を提出する年度に提出すること。
修士論文中間発表会	春学期末	M2	修士論文を提出する年度に実施する。
修士論文の履修登録	9 月下旬 ～10 月上旬	M2	履修登録期間中に各自で履修登録を行うこと。
修士論文・論文要旨の提出	1 月中旬	M2	
論文審査・口述試験	秋学期末	M2	

※ 書式や提出期限に係る詳細は、4月実施の専攻ガイダンスで配布する「修士論文提出・審査の手順および注意事項」を参照のこと。

※ 9月修了希望者は、上記に係る期日を別途指定するため、履修登録前に必ず指導教員に連絡をとり、スケジュール等詳細について確認すること。

## 【修士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

- 1) 指導・審査グループと協議の上、研究課題が明確に設定されていること。
- 2) 研究課題を考察・分析するための枠組みが適切であること。
- 3) 先行研究が適切に引用され、研究内容の学術的な位置づけが明確であること。
- 4) 研究内容が明確かつ論理的に記述されていること。
- 5) 経済学の当該専門分野に関する深い理解に基づき、社会で生じる事象や問題を考察・分析したものであること。

## 2. 授業科目の編成・単位

科目名 ※(他)：他専攻開講科目	単位数		
	必修	選必	選択
ミクロ経済学特講Ⅰ	2		
ミクロ経済学特講Ⅱ			2
ミクロ経済学特講Ⅲ			2
ミクロ経済学特講Ⅳ			2
マクロ経済学特講Ⅰ	2		
マクロ経済学特講Ⅱ			2
計量経済学特講Ⅰ	2		
計量経済学特講Ⅱ			2
応用ミクロ計量経済学特講			2
TOPICS IN MACROECONOMICS			2
応用計量経済学特講			2
論文演習Ⅰ（基礎）	2		
論文演習Ⅱ（応用）			2
プレゼンテーションの技術Ⅰ			2
プレゼンテーションの技術Ⅱ			2
公共経済学特講			2
国際貿易論特講Ⅰ			2
国際貿易論特講			2
財政学特講Ⅰ			2
財政学特講Ⅱ			2
産業組織論特講Ⅰ			2
産業組織論特講Ⅱ			2
CORPORATE FINANCE			4
労働経済学特講Ⅰ			2
労働経済学特講Ⅱ			2

科目名 ※(他)：他専攻開講科目	単位数		
	必修	選必	選択
統計学特講Ⅰ			2
統計学特講Ⅱ			2
統計学特講Ⅲ			2
農業経済学特講			
厚生経済学特講			
環境経済学特講			
開発経済学特講Ⅰ			
開発経済学特講Ⅱ			
日本経済論特講Ⅰ			2
日本経済論特講Ⅱ			2
MONETARY ECONOMICSⅠ			2
MONETARY ECONOMICSⅡ			2
数理経済分析特講Ⅰ			2
数理経済分析特講Ⅱ			2
(他) 分野横断研究法：原理と技法			2
(他) BUSINESS AND ECONOMIC STATISTIC			4
(他) 計量経済学特論Ⅰ			2
(他) 計量経済学特論Ⅱ			2
(他) 政策・事業評価			2
(他) ENVIRONMENT AND DEVELOPMENT IN DEVELOPING COUNTRIES			2

### 3. 履修上の注意

- 1) 修了要件に必要な必修科目 8 単位を含む 30 単位以上を修得し、指導教員の指導のもとに修士論文を作成・提出することが必要である。
- 2) 「研究指導（必修）」を在学中毎学期受けること。なお、必要な合格科目数も定められているので、「1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件」を参照すること。
- 3) 修士論文の履修登録については、論文を提出する学期の履修登録期間に必ず登録をすること。
- 4) 年度初めの専攻ガイダンスで「研究指導」「修士論文作成について」説明をおこなうので、必ず出席のこと。
- 5) 「（他）分野横断研究法：原理と技法」（神学研究科神学専攻開講 2026 年度秋学期 金曜日 5 時限 2 単位科目）について分野横断型の科目として、2022 年度から新たに開設された。本科目により修得した単位は、自専攻科目として修了に必要な単位に算入される。定員 30 名の抽選科目となるので、抽選エントリーの期間や方法、抽選後の先着順での登録方法等について、2026 年度履修要覧〔ガイド・資料編〕「大学院における履修登録」を参照のこと。履修登録を行わずに授業に出席することはできない。なお、評価には P（合格）・X（不合格）を使用する。

#### （早期修了希望者）

上智大学大学院学則第 21 条に基づいて、経済学研究科経済学専攻および経営学専攻の博士前期課程における早期修了について、以下のように定められている。

- 1) 早期修了とは、経済学研究科博士前期課程に 1 年在学した者のうち、所定の手続を経て、1 年次終了時をもって修了することである。
- 2) 早期修了の認定を受けるには、次に掲げる要件を満たしていること。
  - （ア）本人が早期修了を希望すること。
  - （イ）早期修了時において、修了に必要な履修上の要件をすべて満たし、所定の授業科目の単位をすべて取得し、かつ、その成績評価が GPA3.8 以上であること。
  - （ウ）修士論文の評価が A であること。
- 3) 早期修了を希望する者は、早期修了申請書（書式自由）に指導教員の承認印を受けて、これを所属専攻主任・経済学研究科委員長宛に提出すること。なお、早期修了申請書の提出は、1 年次春学期の履修登録前までに行うこと。
- 4) 申請取り消しを希望する場合は、1 年次秋学期の履修中止期間中に、早期修了申請取消願書（書式自由）に指導教員の承認印を受けて、これを所属専攻主任・経済学研究科委員長宛に提出すること。

## 論文演習(I・II)、プレゼンテーションの技術(I・II)登録コード一覧

科目名・対象 開講期	論文演習Ⅰ(基礎) M1/春	論文演習Ⅱ(応用) M1/秋	プレゼンテーションの技術Ⅰ M2/春	プレゼンテーションの技術Ⅱ M2/秋
	登録コード	登録コード	登録コード	登録コード
担当教員				
出島 敬久	MEEC1102	MEEC7702	MEEC7802	MEEC7902
青木 研	MEEC1104	MEEC7704	MEEC7804	MEEC7904
中里 透	MEEC1105	MEEC7705	MEEC7805	MEEC7905
川西 諭	MEEC1106	MEEC7706	MEEC7806	MEEC7906
蓬田 守弘	MEEC1107	MEEC7707	MEEC7807	MEEC7907
近藤 広紀	MEEC1108	MEEC7708	MEEC7808	MEEC7908
来島 愛子	MEEC1109	MEEC7709	MEEC7809	MEEC7909
竹内 明香	MEEC1110 (休講)	MEEC7710 (休講)	MEEC7810 (休講)	MEEC7910 (休講)
釜賀 浩平	MEEC1112	MEEC7712	MEEC7812	MEEC7912
倉田 正充	MEEC1114	MEEC7714	MEEC7814	MEEC7914
堀江 哲也	MEEC1116	MEEC7716	MEEC7816	MEEC7916
南橋 尚明	MEEC1117	MEEC7717	MEEC7817	MEEC7917
樋口 裕城	MEEC1115	MEEC7715	MEEC7819	MEEC7919
中村 さやか	MEEC1118	MEEC7718	MEEC7820	MEEC7920
SCHLEGL Matthias	MEEC1119	MEEC7719	MEEC7821	MEEC7923

## 5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
ECN599-55j00	出島 敬久	
	青木 研	
	中里 透	
	川西 諭	
	蓬田 守弘	
	近藤 広紀	
	来島 愛子	
	竹内 明香	休講
	釜賀 浩平	
	堀江 哲也	
	南橋 尚明	
	倉田 正充	
	樋口 裕城	
	中村 さやか	
SCHLEGL Matthias		

## 経済学専攻 博士後期課程

### 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件

#### 【18年次生以降】

要件項目名	必要単位数	必要科目数	備考（上限、その他）
総単位数	6		
・必修科目			
・選択必修科目	6		理論経済学・応用経済学・経済統計の3コースの中から1コースを選択する。 2. 授業科目の編成・単位を参照。
研究指導（必修）		6	単位なし、在学中毎学期登録される。 6科目以上合格すること。
博士論文			必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格すること。

#### 【17年次生】

要件項目名	必要単位数	必要科目数	備考（上限、その他）
総単位数			
・必修科目			
・選択科目			
研究指導（必修）		6	単位なし、在学中毎学期登録される。 6科目以上合格すること。
博士論文			必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格すること。

#### 【研究指導スケジュール】

年度初めの専攻ガイダンスで「研究指導」「博士論文作成について」説明をおこなうので、必ず出席のこと。  
なお、「3. 履修上の注意」を参照すること。

## 経済学研究科（博士後期課程）における研究指導スケジュール

## 【D1 春学期】

## ① 指導教員と選択するコースワークの確認

経済学専攻：理論経済学コース・応用経済学コース・経済統計コース

経営学専攻：会計学コース・マーケティング論コース・経営学コース

## ② 上記①で選択したコースの特講Ⅰを Loyola で登録・履修

例) 理論経済学コースを選択した学生は「理論経済学特講Ⅰ」を登録・履修

## ③ 「研究指導（必修）」を受ける

※「研究指導」履修登録は学事センターにて行うが、単位には含まれないので留意すること

## 【D1 秋学期】

## ① 「研究指導（必修）」を受ける

※「研究指導」履修登録は学事センターにて行うが、単位には含まれないので留意すること

## 【D2 春学期】

## ① 選択したコースの特講Ⅱを Loyola で登録・履修

例) D1 で「理論経済学特講Ⅰ」を履修した学生は「理論経済学特講Ⅱ」を登録・履修

## ② 「研究指導（必修）」を受ける

※「研究指導」履修登録は学事センターにて行うが、単位には含まれないので留意すること

## 【D2 秋学期】

## ① 「研究指導（必修）」を受ける

※「研究指導」履修登録は学事センターにて行うが、単位には含まれないので留意すること

## 【D3 春学期】

## ① 選択したコースの特講Ⅲを Loyola で登録・履修

例) D2 で「理論経済学特講Ⅱ」を履修した学生は「理論経済学特講Ⅲ」を登録・履修

## ② 「研究指導（必修）」を受ける

※「研究指導」履修登録は学事センターにて行うが、単位には含まれないので留意すること

## 【D3 秋学期】

## ① 「研究指導（必修）」を受ける

※「研究指導」履修登録は学事センターにて行うが、単位には含まれないので留意すること

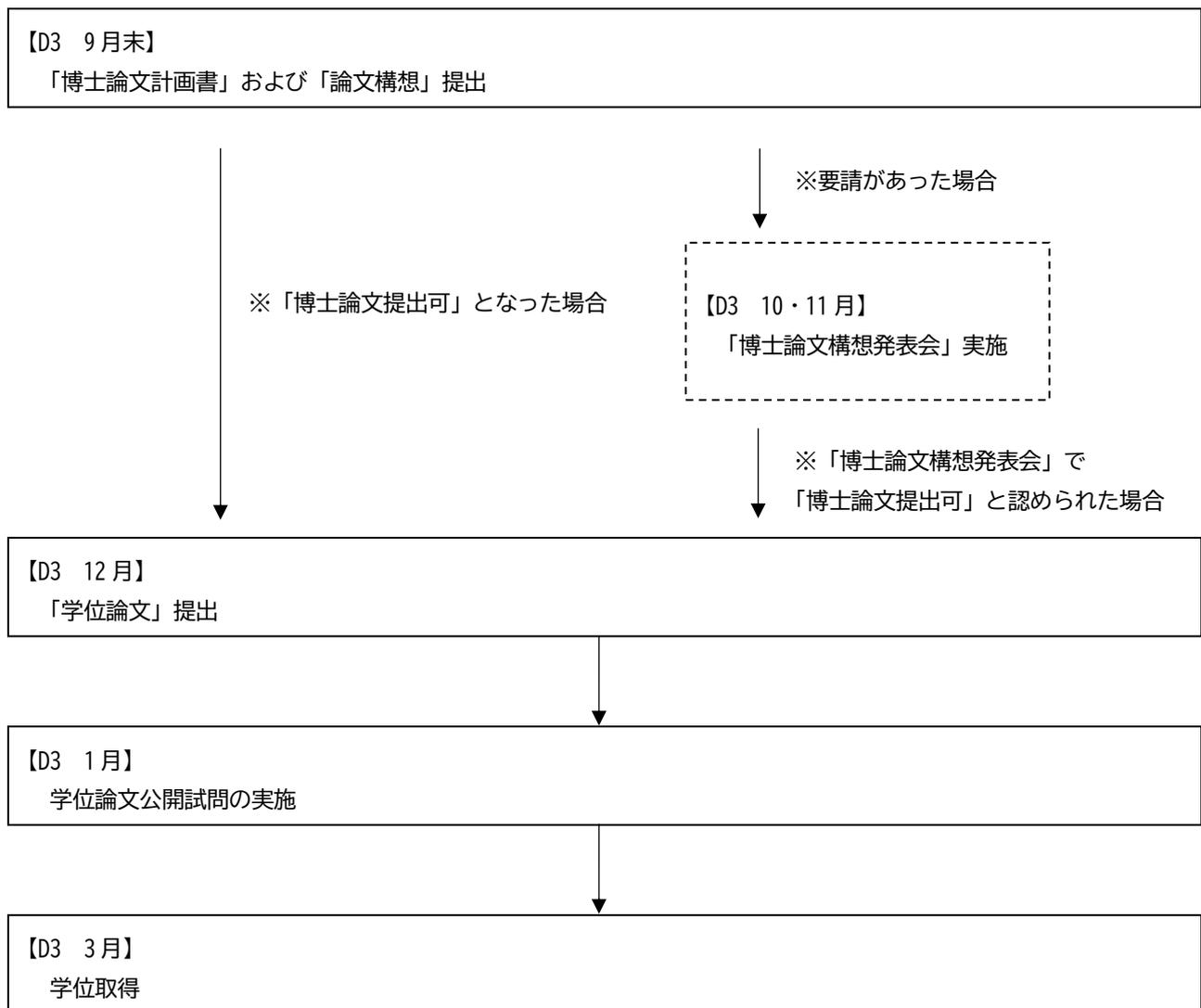
## 【D1～D3 推奨事項】

① 学内セミナーに参加し、学内外研究者の研究報告を聴く

② 学内セミナーならびに学会での研究報告

③ 査読付き学術雑誌への投稿

## 博士学位取得までの推奨スケジュール（3月取得の場合）



## ◆上智大学大学院経済学研究科 博士論文（課程博士）審査の手順および注意事項

博士論文（課程博士）の学位論文は、(1)論文提出の可否、(2)論文内容の二段階での審査が行われる。論文内容に関する審査を受ける前に、論文提出の可否に関する審査を受ける必要がある。

## &lt;論文提出可否審査&gt;

1. 博士論文（課程博士）の提出を希望する学生は、経済学研究科委員会に対して、「博士論文計画書」（書式は別紙の通り）および「論文構想」（書式自由・4000字以内）を経済学研究科事務室に提出する。なお、博士論文計画書には、指導教員の承認印を必要とする。
2. 博士論文計画書の提出を受けた研究科委員会は、三名以上の委員からなる「学位論文提出審査委員会」を設置する。
3. 学位論文提出審査委員会は、次の項目に準拠して博士論文提出の可否を判定する。なお、必要な外国語は1か国語とする。
  - (1) 問題の動機付けと、先行研究に関する十分な考察がなされているか。
  - (2) 当該論文の主題に関して、申請時点で研究の構想（研究方法・手順等）が適切であるか、また十分な客観性・独自性を備えているか。
  - (3) 当該論文の主題に関して、適切な研究業績（公刊された論文・学会発表等）があるか、もしくは、それに相当する業績の公表が可能と見込めるか。原則として、査読付論文2本を必要要件とする。
  - (4) その他（学位論文提出審査委員会が適切と判断した事項）

4. 博士論文提出の可否を判定するために必要と判断した場合には、学位論文提出審査委員会は「博士論文構想発表会」の開催を要請することができる。
  - (1) 構想発表会は公開とする。
  - (2) 構想発表会の標準的な時間配分は、報告 60 分・質疑応答 30 分の計 90 分とする。
5. 博士論文提出の可否に関する学位論文提出審査委員会の判定は、研究科委員会の承認を必要とする。

#### <博士論文審査>

1. 博士論文は、上智大学学位規定（履修要覧〔ガイド・資料編〕に掲載）に則り、必要書類を添えて提出すること。
2. 博士論文の提出を受けた研究科委員会は、三名以上の委員からなる「学位論文審査委員会」を設置する。学位論文審査委員には、原則として学外委員が含まれる。
3. 審査委員会は公開試問を主催し、論文および口頭試問の結果を総合して、学位授与の可否を審査する。
4. 公開試問の標準的な時間配分は、報告 60 分・質疑応答 30 分の計 90 分とする。
5. 学位授与の可否に関する学位論文審査委員会の判定は、研究科委員会の承認を必要とする。

以上

### 【博士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

- 1) 学術性の高い研究課題が設定されていること。
- 2) 研究課題を考察・分析するための枠組みが適切であること。
- 3) 先行研究が適切に引用され、研究内容の学術的な位置づけが明確であること。
- 4) 研究内容が明確かつ論理的に記述されていること。
- 5) 経済学の当該専門分野において、独自の学術的貢献を有する研究内容であること。
- 6) 執筆者が自立的研究者としての研究遂行能力を有することを証するものであること。

## 2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
<b>【理論経済学コース】</b>			
理論経済学特講Ⅰ		2	
理論経済学特講Ⅱ		2	
理論経済学特講Ⅲ		2	
<b>【応用経済学コース】</b>			
応用経済学特講Ⅰ		2	
応用経済学特講Ⅱ		2	
応用経済学特講Ⅲ		2	
<b>【経済統計コース】</b>			
経済統計特講Ⅰ		2	
経済統計特講Ⅱ		2	
経済統計特講Ⅲ		2	

### 3. 履修上の注意

指導教員の研究指導を受け、博士論文を作成・提出することが必要である。

2018年度以降に入学した者には、コースワークが設定されている。

選択必修科目のうち、各コースの特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの順に履修すること。

研究指導について

【17年次生以降】在学中毎学期受けること。なお、必要な合格科目数も定められているので、「1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件」を参照すること。

年度初めの専攻ガイダンスで「研究指導」「博士論文作成について」説明をおこなうので、必ず出席のこと。

## 4. 開講科目一覧表

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他)：他専攻教員 *：非常勤教員	外国語	備考
DEEC3300	休講	理論経済学特講Ⅰ	ECN801-55j00	2	指導教員		D1対象
DEEC3303	休講	応用経済学特講Ⅰ	ECN804-55j00	2	指導教員		D1対象
DEEC3306	休講	経済統計特講Ⅰ	ECN807-55j00	2	指導教員		D1対象
DEEC3301	休講	理論経済学特講Ⅱ	ECN802-55j00	2	指導教員		D2対象
DEEC3304	休講	応用経済学特講Ⅱ	ECN805-55j00	2	指導教員		D2対象
DEEC3307	休講	経済統計特講Ⅱ	ECN808-55j00	2	指導教員		D2対象
DEEC3302	休講	理論経済学特講Ⅲ	ECN803-55j00	2	指導教員		D3対象
DEEC3305	休講	応用経済学特講Ⅲ	ECN806-55j00	2	指導教員		D3対象
DEEC3308	休講	経済統計特講Ⅲ	ECN809-55j00	2	指導教員		D3対象

## 5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
ECN899-55j00	出島 敬久	
	青木 研	
	川西 諭	
	近藤 広紀	
	來島 愛子	
	中里 透	
	蓬田 守弘	
	竹内 明香	休講
	釜賀 浩平	
	堀江 哲也	
	南橋 尚明	
	倉田 正充	
	樋口 裕城	
	中村 さやか	
	SCHLEGL Matthias	

## 経営学専攻 博士前期課程

## 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件

要件項目名	必要単位数	必要科目数	備考（上限、その他）
総単位数	30		
・必修科目			
└論文演習 I	2		
・選択科目	28		
└自専攻科目			
└自研究科他専攻科目			
└委託聴講科目			10単位まで修了に必要な単位として認められる。
研究指導（必修）		4	単位なし、在学中毎学期登録される。 4科目以上合格すること。 ただし、早期修了者については、在学しない学期分は免除される。
修士論文			必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および試験に合格すること。 (修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず修士論文登録をすること。)

## 【研究指導スケジュール】

事項	期日	対象	備考
研究論文コースへの変更届の提出	3 月末まで	M1	研究論文コースへ変更を希望する学生のみ提出が必要。
研究計画書の提出	5 月上旬	M2	修士論文を提出する年度に提出すること。
修士論文中間発表会	春学期末	M2	修士論文を提出する年度に実施する。
修士論文の履修登録	9 月下旬 ～10 月上旬	M2	履修登録期間中に各自で履修登録を行うこと。
修士論文・論文要旨の提出	1 月中旬	M2	
論文審査・口述試験	秋学期末	M2	

- ※ 書式や提出期限に係る詳細は、4月実施の専攻ガイダンスで配布する「修士論文提出・審査の手順および注意事項」を参照のこと。
- ※ 9月修了希望者は、上記に係る期日を別途指定するため、履修登録前に必ず指導教員に連絡をとり、スケジュール等詳細について確認すること。

## 【修士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

- 1) 指導・審査グループと協議の上、研究課題が明確に設定されていること。
- 2) 研究課題を考察・分析するための枠組みが適切であること。
- 3) 先行研究が適切に引用され、研究内容の学術的な位置づけが明確であること。
- 4) 研究内容が明確かつ論理的に記述されていること。
- 5) 経営学の当該専門分野に関する深い理解に基づき、社会で生じる事象や問題を考慮・分析したものであること。

## 2. 授業科目の編成・単位

科目名 ※(他)：他専攻開講科目	単位数		
	必修	選必	選択
論文演習Ⅰ	2		
論文演習Ⅱ			2
論文演習Ⅲ			2
論文演習Ⅳ			2
財務会計論特講Ⅰ			2
財務会計論特講Ⅱ			2
財務会計論研究Ⅰ			2
財務会計論研究Ⅱ			2
管理会計論特講Ⅰ			2
管理会計論特講Ⅱ			2
管理会計論研究Ⅰ			2
管理会計論研究Ⅱ			2
会計情報論特講Ⅰ			2
会計情報論特講Ⅱ			2
会計情報論研究Ⅰ			2
会計情報論研究Ⅱ			2
経営財務論特講Ⅰ			2
経営財務論特講Ⅱ			2
経営財務論研究Ⅰ			2
経営財務論研究Ⅱ			2
経営管理論特講Ⅰ			2
経営管理論特講Ⅱ			2
経営管理論研究Ⅰ			2
経営管理論研究Ⅱ			2
経営戦略論特講Ⅰ			2
経営戦略論特講Ⅱ			2
経営戦略論研究Ⅰ			2
経営戦略論研究Ⅱ			2
人事管理論特講Ⅰ			2
人事管理論特講Ⅱ			2
人事管理論研究Ⅰ			2
人事管理論研究Ⅱ			2
経営組織論特講Ⅰ			2
経営組織論特講Ⅱ			2

科目名 ※(他)：他専攻開講科目	単位数		
	必修	選必	選択
経営組織論研究Ⅰ			2
経営組織論研究Ⅱ			2
マーケティング戦略論特講Ⅰ			2
マーケティング戦略論特講Ⅱ			2
マーケティング戦略論研究Ⅰ			2
マーケティング戦略論研究Ⅱ			2
国際経営論特講Ⅰ			2
国際経営論特講Ⅱ			2
国際経営論研究Ⅰ			2
国際経営論研究Ⅱ			2
SEMINAR IN GLOBAL MARKETINGⅠ			2
SEMINAR IN GLOBAL MARKETINGⅡ			2
RESEARCH IN GLOBAL MARKETINGⅠ			2
RESEARCH IN GLOBAL MARKETINGⅡ			2
マーケティング・サイエンス特講Ⅰ			2
マーケティング・サイエンス特講Ⅱ			2
マーケティング・サイエンス研究Ⅰ			2
マーケティング・サイエンス研究Ⅱ			2
マーケティング・コミュニケーション特講Ⅰ			2
マーケティング・コミュニケーション特講Ⅱ			2
マーケティング・コミュニケーション研究Ⅰ			2
マーケティング・コミュニケーション研究Ⅱ			2
製品開発論特講Ⅰ			2
製品開発論特講Ⅱ			2
製品開発論研究Ⅰ			2
製品開発論研究Ⅱ			2
(他) 分野横断研究法：原理と技法			2

### 3. 履修上の注意

- 1) 修了要件に必要な30単位以上を修得し、指導教員の指導のもとに修士論文を作成・提出することが必要である。
- 2) 各教員が特講と研究を開講しているが、研究は特講を修得した者が履修できることとする。
- 3) 研究指導を在学中毎学期受けること。なお、必要な合格科目数も定められている。「1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件」を参照すること。
- 4) 年度初めの専攻ガイダンスで「研究指導」「修士論文作成について」説明を行うので、必ず出席のこと。
- 5) 「(他) 分野横断研究法：原理と技法」(神学研究科神学専攻開講 2026年度秋学期 金曜日5時限 2単位科目)について分野横断型の科目として、2022年度から新たに開設された。本科目により修得した単位は、自専攻科目として修了に必要な単位数に算入される。定員30名の抽選科目となるので、抽選エントリーの期間や方法、抽選後の先着順での登録方法等について、2026年度履修要覧〔ガイド・資料編〕「大学院における履修登録」を参照のこと。履修登録を行わずに授業に出席することはできない。なお、評価にはP(合格)・X(不合格)を使用する。

#### (早期修了希望者)

上智大学大学院学則第21条に基づいて、経済学研究科経済学専攻および経営学専攻の博士前期課程における早期修了について、以下のように定められている。

- 1) 早期修了とは、経済学研究科博士前期課程に1年在学した者のうち、所定の手続きを経て、1年次終了時をもって修了することである。
- 2) 早期修了の認定を受けるには、次に掲げる要件を満たしていること。
  - (ア) 本人が早期修了を希望すること。
  - (イ) 早期修了時において、修了に必要な履修上の要件をすべて満たし、所定の授業科目の単位をすべて取得し、かつ、その成績評価がGPA3.8以上であること。
  - (ウ) 修士論文の評価がAであること。
- 3) 早期修了を希望する者は、早期修了申請書(書式自由)に指導教員の承認印を受けて、これを所属専攻主任・経済学研究科委員長宛に提出すること。なお、早期修了申請書の提出は、1年次春学期の履修登録前までに行うこと。
- 4) 申請取り消しを希望する場合は、1年次秋学期の履修中止期間中に、早期修了申請取消願書(書式自由)に指導教員の承認印を受けて、これを所属専攻主任・経済学研究科委員長宛に提出すること。

## 論文演習(Ⅰ～Ⅳ)登録コード一覧

科目名・対象/ 開講期	論文演習Ⅰ M1/春	論文演習Ⅱ M1/秋	論文演習Ⅲ M2/春	論文演習Ⅳ M2/秋
	登録コード	登録コード	登録コード	登録コード
担当教員				
新井 範子	MEMG1101	MEMG7851	MEMG7891	MEMG7931
細萱 伸子	MEMG1103	MEMG7853	MEMG7893	MEMG7933
石井 昌宏	MEMG1104	MEMG7854	MEMG7894	MEMG7934
西澤 茂	MEMG1108	MEMG7858	MEMG7898	MEMG7938
杉谷 陽子	MEMG1110	MEMG7860	MEMG7900	MEMG7940
竹之内 秀行	MEMG1111	MEMG7861	MEMG7901	MEMG7941
JOHNS Adam	MEMG1115	MEMG7865	MEMG7905	MEMG7945
具 滋承	MEMG1100	MEMG7850	MEMG7890	MEMG7930
山根 里香	MEMG1116	MEMG7866	MEMG7906	MEMG7946
松嶋 一成	MEMG1119	MEMG7869	MEMG7909	MEMG7949
KAPTURKIEWICZ Agata	MEMG1118	MEMG7868	MEMG7908	MEMG7948
大竹 恒平	MEMG1120	MEMG7870	MEMG7910	MEMG7950
大橋 英司	MEMG1121	MEMG7871	MEMG7911	MEMG7951

## 5.研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
MMI599-56m00	新井 範子	
	細萱 伸子	
	石井 昌宏	
	西澤 茂	
	杉谷 陽子	
	竹之内 秀行	
	JOHNS Adam	
	大竹 恒平	
	KAPTURKIEWICZ Agata	
	具 滋承	
	松嶋 一成	
	山根 里香	
	大橋 英司	

## 経営学専攻 博士後期課程

### 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限、その他）
総単位数	6		
・必修科目			
・選択必修科目	6		会計学・マーケティング・経営学の3コースの中から1コースを選択する。
・選択科目			
研究指導（必修）		6	単位なし、在学中毎学期登録される。 6科目以上合格すること。
博士論文			必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格すること。

### 【研究指導スケジュール】

年度初めの専攻ガイダンスで「研究指導」「博士論文作成について」説明をおこなうので、必ず出席のこと。

なお、「3. 履修上の注意」を参照すること。

## 経済学研究科（博士後期課程）における研究指導スケジュール

## 【D1 春学期】

## ① 指導教員と選択するコースワークの確認

経済学専攻：理論経済学コース・応用経済学コース・経済統計コース

経営学専攻：会計学コース・マーケティング論コース・経営学コース

## ② 上記①で選択したコースの特講Ⅰを Loyola で登録・履修

例) 理論経済学コースを選択した学生は「理論経済学特講Ⅰ」を登録・履修

## ③ 「研究指導（必修）」を受ける

※「研究指導」履修登録は学事センターにて行うが、単位には含まれないので留意すること

## 【D1 秋学期】

## ① 「研究指導（必修）」を受ける

※「研究指導」履修登録は学事センターにて行うが、単位には含まれないので留意すること

## 【D2 春学期】

## ① 選択したコースの特講Ⅱを Loyola で登録・履修

例) D1 で「理論経済学特講Ⅰ」を履修した学生は「理論経済学特講Ⅱ」を登録・履修

## ② 「研究指導（必修）」を受ける

※「研究指導」履修登録は学事センターにて行うが、単位には含まれないので留意すること

## 【D2 秋学期】

## ① 「研究指導（必修）」を受ける

※「研究指導」履修登録は学事センターにて行うが、単位には含まれないので留意すること

## 【D3 春学期】

## ① 選択したコースの特講Ⅲを Loyola で登録・履修

例) D2 で「理論経済学特講Ⅱ」を履修した学生は「理論経済学特講Ⅲ」を登録・履修

## ② 「研究指導（必修）」を受ける

※「研究指導」履修登録は学事センターにて行うが、単位には含まれないので留意すること

## 【D3 秋学期】

## ① 「研究指導（必修）」を受ける

※「研究指導」履修登録は学事センターにて行うが、単位には含まれないので留意すること

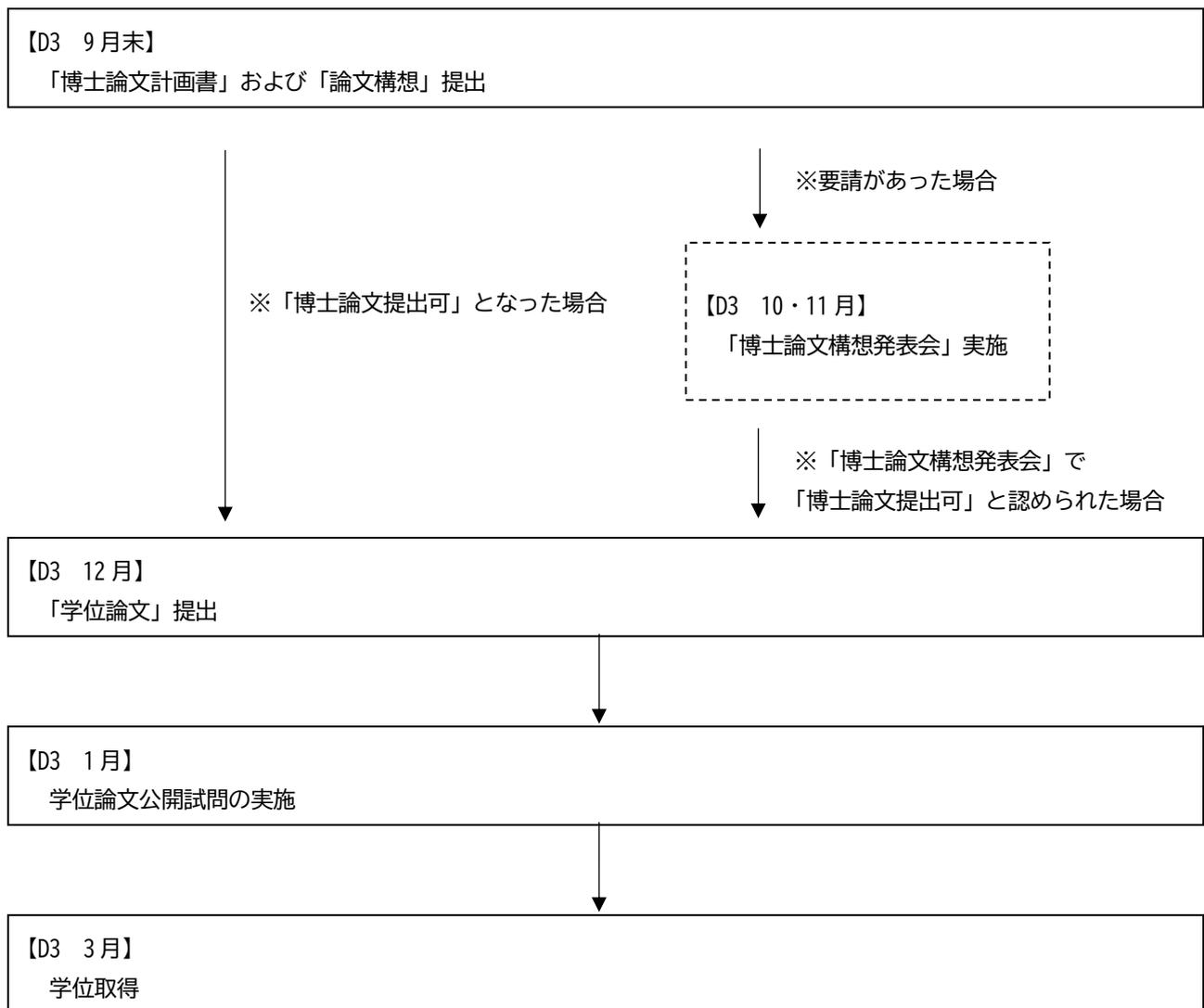
## 【D1～D3 推奨事項】

① 学内セミナーに参加し、学内外研究者の研究報告を聴く

② 学内セミナーならびに学会での研究報告

③ 査読付き学術雑誌への投稿

## 博士学位取得までの推奨スケジュール（3月取得の場合）



## ◆上智大学大学院経済学研究科 博士論文（課程博士）審査の手順および注意事項

博士論文（課程博士）の学位論文は、(1)論文提出の可否、(2)論文内容の二段階での審査が行われる。論文内容に関する審査を受ける前に、論文提出の可否に関する審査を受ける必要がある。

## &lt;論文提出可否審査&gt;

1. 博士論文（課程博士）の提出を希望する学生は、経済学研究科委員会に対して、「博士論文計画書」（書式は別紙の通り）および「論文構想」（書式自由・4000字以内）を経済学研究科事務室に提出する。なお、博士論文計画書には、指導教員の承認印を必要とする。
2. 博士論文計画書の提出を受けた研究科委員会は、三名以上の委員からなる「学位論文提出審査委員会」を設置する。
3. 学位論文提出審査委員会は、次の項目に準拠して博士論文提出の可否を判定する。なお、必要な外国語は1か国語とする。
  - (1) 問題の動機付けと、先行研究に関する十分な考察がなされているか。
  - (2) 当該論文の主題に関して、申請時点で研究の構想（研究方法・手順等）が適切であるか、また十分な客観性・独自性を備えているか。
  - (3) 当該論文の主題に関して、適切な研究業績（公刊された論文・学会発表等）があるか、もしくは、それに相当する業績の公表が可能と見込めるか。原則として、査読付論文2本を必要要件とする。
  - (4) その他（学位論文提出審査委員会が適切と判断した事項）

4. 博士論文提出の可否を判定するために必要と判断した場合には、学位論文提出審査委員会は「博士論文構想発表会」の開催を要請することができる。
  - (1) 構想発表会は公開とする。
  - (2) 構想発表会の標準的な時間配分は、報告 60 分・質疑応答 30 分の計 90 分とする。
5. 博士論文提出の可否に関する学位論文提出審査委員会の判定は、研究科委員会の承認を必要とする。

#### <博士論文審査>

1. 博士論文は、上智大学学位規定（履修要覧〔ガイド・資料編〕に掲載）に則り、必要書類を添えて提出すること。
2. 博士論文の提出を受けた研究科委員会は、三名以上の委員からなる「学位論文審査委員会」を設置する。学位論文審査委員には、原則として学外委員が含まれる。
3. 審査委員会は公開試問を主催し、論文および口頭試問の結果を総合して、学位授与の可否を審査する。
4. 公開試問の標準的な時間配分は、報告 60 分・質疑応答 30 分の計 90 分とする。
5. 学位授与の可否に関する学位論文審査委員会の判定は、研究科委員会の承認を必要とする。

以上

### 【博士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

- 1) 学術性の高い研究課題が設定されていること。
- 2) 研究課題を考察・分析するための枠組みが適切であること。
- 3) 先行研究が適切に引用され、研究内容の学術的な位置づけが明確であること。
- 4) 研究内容が明確かつ論理的に記述されていること。
- 5) 経営学の当該専門分野において、独自の学術的貢献を有する研究内容であること。
- 6) 執筆者が自立的研究者としての研究遂行能力を有することを証するものであること。

## 2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
会計学特講Ⅰ		2	
会計学特講Ⅱ		2	
会計学特講Ⅲ		2	
マーケティング論特講Ⅰ		2	
マーケティング論特講Ⅱ		2	
マーケティング論特講Ⅲ		2	
経営学特講Ⅰ		2	
経営学特講Ⅱ		2	
経営学特講Ⅲ		2	

### 3. 履修上の注意

指導教員の研究指導を受け、博士論文を作成・提出することが必要である。  
2018年度以降に入学した者には、コースワークが設定されている。  
選択必修科目のうち、各コースの特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの順に履修すること。

#### 研究指導について

【17年次生以降】在学中每学期受けること。なお、必要な合格科目数も定められているので、「1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件」を参照すること。

年度初めの専攻ガイダンスで「研究指導」「博士論文作成について」説明を行うので、必ず出席のこと。

## 4. 開講科目一覧表

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他)：他専攻教員 *：非常勤教員	外国語	備考
DEMG2000	休講	会計学特講Ⅰ	ACC801-56j00	2	経営学専攻各指導教員		D1対象
DEMG2010	休講	会計学特講Ⅱ	ACC802-56j00	2	経営学専攻各指導教員		D2対象
DEMG2020	休講	会計学特講Ⅲ	ACC803-56j00	2	経営学専攻各指導教員		D3対象
DEMG2030	休講	マーケティング論特講Ⅰ	MRK801-56j00	2	経営学専攻各指導教員		D1対象
DEMG2040	休講	マーケティング論特講Ⅱ	MRK802-56j00	2	経営学専攻各指導教員		D2対象
DEMG2050	休講	マーケティング論特講Ⅲ	MRK803-56j00	2	経営学専攻各指導教員		D3対象
DEMG2060	休講	経営学特講Ⅰ	MAN801-56j00	2	経営学専攻各指導教員		D1対象
DEMG2070	春	経営学特講Ⅱ	MAN802-56j00	2	経営学専攻各指導教員		D2対象
DEMG2080	休講	経営学特講Ⅲ	MAN803-56j00	2	経営学専攻各指導教員		D3対象

## 5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
MMI899-56m00	新井 範子	
	細萱 伸子	
	石井 昌宏	
	JOHNS Adam	
	西澤 茂	
	杉谷 陽子	
	竹之内 秀行	
	大竹 恒平	
	KAPTURKIEWICZ Agata	
	具 滋承	
	松嶋 一成	
	山根 里香	
	大橋 英司	